



※今月のみ受注の書目です。注文が重複した場合は、多い方の冊数で進めさせていただきます。

民俗学書ご担当者さま

(2020年1月下旬刊行予定)

南方熊楠のロンドン

志村真幸 (南方熊楠研究会運営委員、京都外国語大学・慶應義塾大学・群馬大学非常勤講師) [著]

A5判上製 / 296頁 本体予価 4,000円 ISBN978-4-7664-2650-2 C3039

👉ココに注目!

- ・南方熊楠のロンドン滞在期の研究活動にフォーカスを当てる。
- ・国際的学術空間において、熊楠が果たした役割とは？

南方熊楠が Nature, Notes and Queries 両誌に発表した400篇の英文論考と、彼の大英博物館での研究活動を分析。19世紀末～20世紀前半に、ロンドンを中心とする国際的学術空間において、熊楠が果たした役割を明らかにする。

対象 (民俗学を専攻する) 研究者、南方熊楠ファン

関連の既刊書はこちら!

南方熊楠 —— 複眼の学問構想

本体価格 4,500円 A5判上製 / 628頁 ISBN 978-4-7664-2362-4 2016年12月

松居竜五著 南方熊楠研究の第一人者による「熊楠論」。西欧の知的潮流に正面から向き合い、独創的な知を紡いだ学者熊楠の思想形成プロセスを明らかにする労作。第15回角川財団学芸賞受賞。

👉 詳細目次は裏面に掲載! ぜひご確認ください!

👉 ご注文は FAX で! 03 - 3451 - 3124 📞

	番線	ご注文部数	発行所：慶應義塾大学出版会	本体予価	部数
新刊委託			志村真幸 著 南方熊楠のロンドン ISBN978-4-7664-2650-2 C3039	4,000円	★★
			松居竜五 著 南方熊楠——複眼の学問構想 ISBN978-4-7664-2362-4 C3039	4,500円	/
返品条件付注文品	番線	ご注文部数	発行所：慶應義塾大学出版会	本体価格	部数

★1つで「500部」を表します

〈詳細目次〉

序章 雑誌の国の熊楠——英文論文三七五篇の意義と価値

- 1 膨大で手つかずの英文論文／2 英文論文から見えてくるもの／3 これまでの研究／
- 4 研究者なのかインフォーマントなのか／5 アマチュアとプロの学問空間／6 雑誌という世界

第I部 『ネイチャー』——近代科学を支えた雑誌という装置

第1章 ロンドンでの二つの「転換」——なぜ植物学から離れたのか

- 1 研究のスタート／2 植物学との出会い／3 アメリカ時代の植物学／4 ロンドンでの植物学／
- 5 大英博物館へ／6 書籍の収集

第2章 「東洋の星座」に秘められた戦略——古天文学と比較民族学

- 1 『ネイチャー』における熊楠の位置づけへ／2 「東洋の星座」の伝説／3 『ネイチャー』と熊楠／
- 4 『ネイチャー』の誌面構成／5 「東洋の星座」／6 『ネイチャー』における天文学

第3章 一九世紀末の『ネイチャー』を読む——先端科学と科学啓蒙のあいだ

- 1 『ネイチャー』第四八巻／2 『ネイチャー』第四八巻の投稿欄／3 質疑応答と議論／
- 4 熊楠の応答関係

第4章 東洋への関心——日本、中国、インド

- 1 「動物の保護色に関する中国人の先駆的観察」／2 『ネイチャー』における東洋／
- 3 日本への関心／4 インド、中国への関心／5 初期日本人の投稿／6 インドのカンハイヤラル

第5章 東洋の情報提供者から世界の探求者へ——そして熊楠の挫折

- 1 東洋の専門家からの変化／2 「マンドレイク」／3 「『指紋』法の古さについて」
- 4 ロスマ論争とシュレーゲル／5 比較文化の時代／6 熊楠の東西比較

第6章 『ネイチャー』からの撤退——変容する雑誌空間

- 1 熊楠の帰国と、帰国後の投稿／2 那智隠棲期以降／3 最後の投稿「古代の開頭手術」
- 4 熊楠にとっての『ネイチャー』

第II部 『ノーツ・アンド・クエリーズ』——ローカルな知とグローバルな知の接合・衝突する場

第7章 熊楠と『ノーツ・アンド・クエリーズ』——三四年間の投稿生活

- 1 熊楠と『N&Q』／2 『N&Q』への初投稿／3 「神跡考」ほか

第8章 質疑応答するアマチュア知識人たち——『ノーツ・アンド・クエリーズ』という世界

- 1 『N&Q』の創刊／2 誌面構成と投稿者たち／3 『N&Q』という知的空間／4 熊楠の投稿
- 5 『N&Q』と日本民俗学の創始

第9章 辞書の黄金時代

——『オックスフォード英語大辞典』『エンサイクロペディア・ブリタニカ』を生みだした場所

- 1 辞書の黄金時代／2 オビチュアリ／3 『オックスフォード英語大辞典』／4 マレーと『N&Q』／
- 5 『N&Q』投稿者と『OED』／6 『イギリス人名事典』と『エンサイクロペディア・ブリタニカ』／
- 7 大辞書、大事典の世界から見えてくるもの

第10章 『ノーツ・アンド・クエリーズ』的空間の世界展開——人文科学者たちの見はてぬ夢

- 1 『フラヘン・エン・メデデーリングン』／2 熊楠への寄稿依頼／3 「妻の腹に羊を描いた男」／
- 4 『フラヘン・エン・メデデーリングン』と『N&Q』／5 『N&Q』から派生した雑誌群

第11章 熊楠は『ノーツ・アンド・クエリーズ』をどのように利用したか——論文執筆の目的

- 1 『N&Q』におけるクエリー／2 熊楠のクエリー／3 熊楠へのリプライ／4 邦文論文との関係／
- 5 リプライの邦文論文への利用

第12章 熊楠の西洋世界への貢献——その英文論文はいかに利用されたか

- 1 『N&Q』におけるクエリーの位置づけ／2 ダグラス・オーウェンと「丸」／
- 3 ポストゲイト「戦争における野生動物の使用」／4 アッカーマン『ポピュラー・ファラシーズ』

終章 国際的知的空間における熊楠の役割と価値——新しい熊楠像へ

- 1 熊楠の英文論文／2 アマチュア／3 雑誌という学術空間／4 雑誌と科学／
- 5 熊楠の国際学術空間ではたした役割／6 研究者とインフォーマント／
- 7 熊楠が日本民俗学に残したもの／8 英文論文から見える熊楠像／9 熊楠の論文の目的